



ITU-Tレビュー委員会： 4年間の活動を振り返って

一般社団法人情報通信技術委員会 代表理事専務理事

まえだ よういち
前田 洋一



1. はじめに

レビュー委員会は2012年のITU-T総会WTSA-12（世界電気通信標準化総会：World Telecommunication Standardization Assembly）において、日本の提案に基づき新設され、2013年から2016年の研究会期4年間の検討成果が、2016年10月、チュニジアのハマメット（Yasmine Hammamet）で開催のWTSA-16会合（図1）に報告され、レビュー委員会の目的達成と完了が合意された。本稿では、レビュー委員会の活動を振り返り、達成された成果の概要と今後のITU-Tの標準化活動における展開について解説する。

2. レビュー委員会の成果概要

レビュー委員会の役割は、「ITU-Tの標準化体制に関する戦略的かつ組織的な検証と他の標準化機関との協調連携の枠組みの検討」で、WTSA-12の決議82により担務が規定されている。レビュー委員会の議長に筆者が指名され、副議長には、アラブ、欧州、南北アメリカ、アフリカ、旧ロシア、アジアの各地域を代表した以下の6名が就任し、この6名を含むマネジメントメンバー体制を構築した。

- ・ Mr. Musab ABDULLAH（バーレーン）
- ・ Mr. Reiner LIEBLER（ドイツ）
- ・ Mr. Jim MACFIE（カナダ）
- ・ Mr. Fabien MBENG EKOGHA（ガボン）（2013-2015年）
- ・ Mr. Guy-Michel KOUAKOU（コートジボアール）（2015-2016年）
- ・ Mr. Albert NALBANDIAN（アルメニア）
- ・ Mr. Kishik PARK（韓国）

この4年間に7回の実会合が開催され、主管庁を中心に40件の寄書が議論された。その検討状況は逐次TSAG（Telecommunication Standardization Advisory Group）会合に報告され、TSAGでのITU-Tの組織改革のアクションに貢献した。

レビュー委員会の検討を通じての主要な成果は、以下の9項目にまとめることができる。

- (1) ITU-Tの標準化体制と協調活動に関する意識調査
ITU-Tの現状の問題点を明らかにするため、ITU-Tメンバーに対するアンケート調査を行い、検討課題の整理を行っ



■ 図1. WTSA-16開催案内



た。アンケート回答を分析し、ITU-Tと他の標準化機関との協調連携強化のための実現方法、複雑で様々な既存の検討体制の現状分析と体制の簡素化による見直しなど、ITU-Tの標準化活動方法と体制の再検証の必要性が認識された。

(2) SG活動モニタリング評価の実施

ITU-Tの各研究委員会(SG: Study Group)の標準化アクティビティの検証のためには、客観的な活動評価データが必要であり、それぞれのSG会合への参加者数や寄書数、勧告草案などの成果出力文書の数、他の標準化機関との連携協調のためのリエゾン文書の交換数、実働作業項目(Work item)数など、標準化活動に関する統計データを自動集計(モニタリング)できるシステムをITU-T事務局に構築した。これらのデータは定期的にTSAG会合で報告され、各SGの活動検証を実施できるようになった。

SG活動モニタリングの統計データは、各SGの運営管理に有益であることが認識された。例えば、各SGでの勧告作成の作業項目ごとに、勧告草案が存在し、草案検討のための寄書審議や草案アップデートが1年半以上滞っている課題(Stale work item: 陳腐課題)は無いかを監視することにより、常に各SGでの課題計画の見直しを促進することができる。その結果、11個の全てのSGで、陳腐課題数の削減を図ることができた。また、SGの活動モニタリングを今後もTSAGにおいて、定期的に継続することと、陳腐課題の事前警告をシステム化し、各SGに事前通知できるようにすることを合意した。

(3) ITU-Tの協調連携機構の検証

ITU-Tには他の標準化機関との協調連携のためのメカニズムとして、Focus Group (FG)、Global Standards Initiatives (GSI)、Joint Coordination Activities (JCA)、Inter-sector Rapporteur Group (IRG)などの様々な検討グループの形態があり、あまりに多くの検討グループが存在したことから、それらの必要性を含めた運用管理と活動状況の検証を行うこととなった。検討の結果、Focus Groupの更なる活用の有効性を確認するとともに、全てのGSIの終結を合意した。また、TSAGによる様々な検討グループの運用管理とその活動検証の継続が必要との認識に至った。

(4) Technology Watchレポートの更なる有効活用

ITU-T事務局で実施してきた標準化のための技術革新に

関する調査(Technology Watchレポート)の有効性が評価され、より広い活用を図るためにTechnology Watch運営委員会を構成することとなった。

(5) CTO会議の活用

市場要望や革新的な話題に沿った標準化を推進するために、各企業のCTO(最高技術責任者)の意見を収集し、標準化戦略に活用することとした。レビュー委員会ではCTO会議の結果を踏まえ、WTSA-16の時点では、以下の8つの課題をITU-Tの標準化戦略における将来の重要課題として取り上げた。これらの新課題は、WTSA-16において、新決議やSGの課題構成に反映された。

- ・ Internet of things (IoT)
- ・ Video
- ・ Software defined networking and network function virtualization (SDN、NFV)
- ・ Intelligent transportation systems (ITS)
- ・ 5G systems
- ・ Service interoperability in fixed-mobile hybrid environments including IoT
- ・ Trusted information infrastructure
- ・ Open-source solutions

(6) ITU-T研究委員会の再編検討

TSAGでのSG再編検討に資するため、ハイレベルな再編の基本原則について、以下の7つの原則を合意した。WTSA-16でのSG再編に関する考え方はこれらの原則に基づき検証が行われた。

- A: Optimized structure
- B: Clear mandates
- C: Enhanced coordination and cooperation
- D: Cost-effectiveness and attractiveness
- E: Efficient and productive working methods
- F: Timely identification of standardization needs
- G: Support for bridging the standardization gap

(7) フォーカスグループ(FG)のためのガイドライン

FGの成果文書(Deliverables)について、勧告草案化への検討を促進するために、そのFGの親グループへの効率的な移管のためのガイドラインを勧告A.7の付録Iとして作成することとし、勧告A.7改訂としてルール化することを合意した。



(8) 標準化戦略策定機能の実現

今後の標準化において、市場要望や革新的な技術の進展に沿った標準化を推進することが重要であるという共通認識に立ち、産業界や政府にとっての標準化戦略的に重要な新規課題をタイムリーに発掘するために、TSAGの中に標準化戦略策定機能を実現することを提案した。新研究会期では、レビュー委員会の代わりに、TSAGの中に、新たな標準化戦略に関するラポータグループを構成して、検討を推進することを合意した。

(9) 「垂直型」研究委員会の設立

ITS、IoT、次世代5Gモバイルなどの課題を扱うには、下位レイヤのネットワーク提供者からアプリケーションや個々のサービスユーザを含む上位レイヤまでの「垂直型」研究委員会の構成が適しているという提案をもとに、2015年6月に、研

究会期中でのSG新設という初めての経験だったが、IoTに関する新しい研究委員会SG20を設立することに貢献した。

3. WTSA-16でのレビュー委員会活動報告

上記の9項目をレビュー委員会の成果について、2016年7月開催のレビュー委員会とTSAGの最終会合において合意するとともに、2016年10月のWTSA-16への正式報告を行った(図2)。提案については、WTSA-16での新研究会期における施策として具体化することを合意した。

以上により、レビュー委員会は決議82で示された当初の目的を達成したと評価され、WTSA-16において決議82の終結を合意し、レビュー委員会の活動は終了した。今後、レビュー委員会の機能は、TSAGにおける「標準化戦略」、「連携強化」、「作業方法」などのラポータグループの活動により継続していくことが合意された。

Conclusions

Proposals to WTSA-16

	Continue monitoring ITU-T SG activities by TSAG	Apply the restructuring principles adopted by TSAG in WTSA-16	
	Continue using the outcomes of CxO Group meetings/ Technology Watch	Continuation of review of current cooperation/collaboration mechanisms and groups by TSAG	
	Suppress WTSA Resolution 82 at WTSA-16; TSAG to continue the review functions	Continue review functions by TSAG via its various Rapporteur Groups such as Standardization Strategy	

■ 図2. WTSA-16での報告でのまとめのプレゼンテーション



■ 写真. レビュー委員会マネジメントメンバーとの集合写真



レビュー委員会の終わりに当たり、レビュー委員会のマネジメントメンバーに対して議長からの感謝状を贈呈した。写真は、2016年7月のレビュー委員会の最終会合における感謝状贈呈式での集合写真である。

4. レビュー委員会成果の新研究会期への反映

(1) TSAGのラポータグループ (RG) 構成

新研究会期の第1回TSAG会合(2017年5月1日～4日、ジュネーブ開催)において、TSAG構成として、以下の6つのRGの設立とラポータ指名が行われ、承認された。

- ・Standardization Strategy (標準化戦略) : 前田洋一 (日本)
- ・Work Programme and structure (作業計画と体制) : Mr. Reiner Liebler (ドイツ)
- ・Working Methods (作業方法) : Mr. Steve Trowbridge (米国)
- ・Strengthening Cooperation/Collaboration (協力/協調強化) : Mr. Glenn Parsons (カナダ)
- ・Strategic and Operational Plan (戦略的および運用計画) : Mr. Victor Martinez Vanegas (メキシコ)
- ・WTSA Resolutions Review (WTSA決議レビュー) : Mr. Vladimir Minkin (ロシア)

今後、RGの統合の可能性はあるが、標準化戦略に関するRGは、TSAGの中の重要なRGの一つに位置付けられている。筆者はこの議長(ラポータ)に新たに正式指名された。また、標準化戦略RGには、各産業界から以下の6名のアシエント ラポータも指名され、彼らと連携して標準化戦略の審議を推進していく予定である。

- Ms. Judy ZHU (Alibaba Group、中国)
- Mr. Didier BERTHOUMIEUX (Nokia Bell Labs、フランス)
- Ms. Rim BELHASSINE-CHERIF (Tunisie Telecom、チュニジア)
- Mr. Vasily DOLMATOV (ロシア)
- Mr. Stephen HAYES (Ericsson、米国)
- Mr. David WARD (Cisco、米国)

(2) 標準化戦略RGの今後の予定

標準化戦略RGはITU-Tにとって新体制であり、TSAGの第1回会合では、RGのラポータ体制や検討ミッションなどの組織的手続きの整理に時間を費やした。合意された標準化戦略RGの役割は、「ITU-Tの活動分野における主な技術動向、市場、経済、政策ニーズなどを分析することにより、ITU-Tの標準化戦略についてTSAGと各SGに助言する」ことである。これには、ITU-T局長が企画するCTOグループ^{*1}会議やTechnology Watch^{*2}調査等を通じて得られる業界の意見や最新の技術動向を分析することにより、市場動向を予測し、ITU-Tが取り組むべき新しい標準化トピックを見出し、将来の標準化の方向性や他のSDOとの協力の必要性などについて提案することが期待されている。

第1回TSAGでの標準化戦略RG会合では、我が国からSociety 5.0を紹介する寄書を提出し、標準化戦略策定に当たって各国や他の標準化機関の戦略計画を考慮すべきであると提案し、米国やドイツから支持があり、今後の検討方針として合意された。また、ISO/IEC JTC 1 (以降、JTC1)と今後連携強化を図るため、TSAGに標準化戦略RGが設立されたことをJTC1に周知するリエゾン文書を送付することが合意された。

標準化戦略RGとしては、検討の加速を図るため、中間会合の開催計画を合意した。中間会合への参加は、会合のオープン性を維持する観点から、全てのITU-Tメンバーに参加はオープンで、リモートアクセスの環境も用意する計画である。

5. おわりに

レビュー委員会で合意した報告書案について、WTSA-16会合で報告を行い、無事終了し、レビュー委員会議長としての役目を何とか果たすことができました。この4年間にわたるWTSA-12やWTSA-16、及びレビュー委員会の会合対応にご支援をいただいた総務省をはじめとする関係各位の皆様にご挨拶を申し上げますとともに、新たな研究会期におけるTSAGの標準化戦略RGでの検討に引き続きご参加いただけますように、お願い申し上げます。

*1 : <https://www.itu.int/en/ITU-T/tsbdir/cto/Pages/default.aspx>

*2 : <https://www.itu.int/en/ITU-T/techwatch/Pages/default.aspx>